

合同図書館所蔵「訴訟記録」のマイクロフィルム化が成る

—早稲田大学図書館で2011年5月より「刑事裁判記録」として公開—

東弁・二弁合同図書館委員会委員 野島 正 (42期)

長らく合同図書館に「秘蔵」されていた「訴訟記録」が、早稲田大学の援助と協力によってマイクロフィルム化され、2011年5月18日に早稲田大学図書館で「刑事裁判記録」として研究者を中心に利用が可能となりました。

公開された訴訟記録は、明治30年代（1900年代）から昭和20年代（1950年代）に及ぶもので、原資料は79件（896冊）にのぼります。原資料のタイトルを瞥見するだけでも、「足尾鉍毒兇徒嘯聚事件」をはじめ、「野口男三郎事件」「今村勝太郎露探殺人事件」「池田亀太郎事件」「村山村癩療養所設置反対騒擾事件」と続き、昭和3年に実施された陪審裁判第一号事件である「山藤寒子放火未遂事件」や「弁護士布施辰治懲戒事件」を経て「松川事件」へ至るなど、歴史的に著名かつ重要な事件が高嶺を連ねる膨大な資料の一大山脈というほかありません。花井卓蔵らそれぞれの事件の弁護を担当した弁護士または弁護団から合同図書館の前身である東京弁護士会図書館が寄贈を受けた貴重な訴訟記録です。

いまから4年ほど前に、早稲田大学所属の研究者であった藤野裕子氏（現在・同大学文学学術院・助教）がこれらの訴訟記録のコレクションに注目したのを機会に、同大学の研究助成費などの援助を得て、同大学と合同図書館の協力によってマイクロフィルム化が実現し、このほど同大学図書館側の膨大な目録作成等の準備作業が終わり、「刑事裁判記録」として利用公開の運びとなりました。

訴訟記録のマイクロフィルム化と公開の学問的意義並びにマイクロフィルムの閲覧及び複写等の具体的な手続については、早稲田大学図書館のホームページを各自直接ご参照ください。（<http://www.wul.waseda.ac.jp/CLIB/MICRO/keiji.html>）

これらの訴訟記録の主な内容とリストを概観したい方には、現在、合同図書館に所蔵されている『稀観』（昭和61年刊行・東京弁護士会編）の「訴訟記録之部（附 所蔵訴訟記録一覧）」をご通覧いただくことをお勧めします。

なお、マイクロフィルム原本は、合同図書館に所蔵されていますが、残念ながら、マイクロフィルムリーダーがないため合同図書館では利用できません。訴訟記録の原本は、貴重図書として館長の許可を得た上で、閲覧可能です。

今回の所蔵訴訟記録のマイクロフィルム化は、他面、合同図書館のみならず弁護士会の側に、在野の弁護士が現在各所に所蔵保管する貴重な訴訟記録を蒐集保存し散逸から守る重大な責務のあることを改めて自覚させるものでした。そして、蒐集した資料の活用方法について、有益な示唆を与えてくれました。

最後に、マイクロフィルム化にご尽力いただいた早稲田大学図書館をはじめとする同大学側の関係者に深謝し、これらの訴訟記録が広く学問・研究の発展に活用されることを期待します。